

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 慈恵荘
(ユニット名)	グループホーム 慈恵荘
所在地 (県・市町村名)	長崎県 大村市
記入者名 (管理者)	管理者 野田 富夫
記入日	平成 19年 9月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人開設時の45年前からの理念である『至誠天に通ず』を、利用者・家族・職員等にも理解しやすいように『まごころと思いやり』と解りやすい言葉で表現して、玄関に掲示し、広報誌でも取り上げている。	○	法人やホームの思いや取り組みが広く浸透するように、常に正直で誠意のある活動を地道に継続していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念の実践項目として『人を敬う』ということを開設時から明示しており、接遇面では常に意識して取り組んでおり、日々のミーティングでも取り上げて生活の場面に反映されている。	○	ホーム内での取り組みだけに留まらず、人として生を受けて生きていく上でも大切なことであるので、関係ご縁のある方々にも広く浸透するように心掛け、自らも高めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	ホーム内外の活動や外出、買い物、暮らし振りを定期的にホーム便りに掲載して、事業所の実践を伝えている。	○	ホームを選んだり話題にする方々が、単に場所や利用料などを話すのではなく、理念について語ってもらえるように、特徴として定着していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方々へ手作り饅頭のおすそ分け、飼っている犬の散歩中の会話、行事の時のボランティアなど、相互の関係を大切にしている。	○	日常的に交流が深められるように、更に関係作りを行いたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	目の前の小学校の下校時の見守りが毎週火曜と木曜は地域に協力依頼があり、小学生に声をかけながら見守りを行っている。町内や小学校の行事に参加して交流する機会もある。	○	大きな行事だけではなく、個人としての交流の機会をもっと増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組みを理解して頂いたり、地域の運動会や夏祭りに参加しながら、存在と役割を理解して頂いていることから、地域の方の介護保険や認知症に関する相談も受けて対応している。	○	認知症・介護保険・年金・生活保護・権利擁護・悪徳商法など、地域の方々の福祉に関する相談の窓口となるように、事業所としての質の向上にもさらに努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は全職員が個別に作成することで、評価の意義とねらいについて理解を深めて取り組んでいる。評価項目や、項目以外でも望ましいグループホームのあり方について全体として改善を重ねている。	○	職員個々人の意識をさらに向上しながら、ご家族、関係者にも広くご理解いただけるように取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	きめ細かに情報をありのままに開示することで、事業所やグループホームに対する理解を深めて頂いている。メンバーからの意見に対しては、具体的な記録や写真、便り、統計表などの実績に基づく根拠資料を添えて、わかりやすく説明している。	○	運営推進会議の議題の内容によっては、委員として以外の方にもご参加頂けるように働きかけ、協力者・理解者の裾野を広げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険運営協議会や介護認定審査会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス運営協議会など、グループホーム代表としての会議に委員として参加していることもあり、日常的に直接顔を合わせて話をする機会があり、相互の情報提供や課題解決についても協働している。	○	市内における在宅サービスや介護保険行政の諸問題に関しても、グループホームの特性や協議会としての組織力を活用して、連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護等の研修にも積極的に参加して資料も共有している。また、大村市の権利擁護の委員会にも委員として参加しており、先駆的に市民・事業者向けのリーフレットやマニュアルの作成や、困難事例の検討会にも委員として直接関わっている。	○	必要であれば、社会福祉法人として委託を受けたいので、利用者や地域の方々の権利擁護事業に協力していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護と同様に虐待に関する研修会にも積極的に参加して資料も共有している。また、大村市の権利擁護の委員会にも委員として参加していることもあり、先駆的に市民・事業者向けのリーフレットやマニュアルの作成にも直接関わっている。さらに、市内の事業者や他ホームの家族からの相談も実際にあり、対応している。	○	何気ない言葉や仕草であっても、自覚が無いままに虐待として捉えられることがあるので、さらに気配りを高めあいながら質の向上に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の前の段階から、ホームとしてできること、不十分なところも事前に説明をしたうえで、書類等を十分に読んで頂く時間も考慮して、書面もお渡ししながら、そのお渡した控えも頂いている。</p>	<p>○</p> <p>利用や契約に到る前の見学の場合にも、ホームの特色をわかりやすく説明していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>大村市の介護相談員派遣事業を毎月積極的に受け入れており、報告書に記載されている他ホームや他事業のことであっても、ホーム内で共有して改善につなげている。</p>	<p>○</p> <p>訪問相談員やボランティア、ご家族、外部の方の受入れと要望を引き出して、小さな事でもクレームとして捉えるようにしたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に便りを発行して活動を報告している。ご家族が訪問した際に気づきの報告や金銭管理の報告、電話、郵便も活用している。</p>	<p>○</p> <p>健康状態や運営に関する情報は、個別具体的にわかりやすく説明していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口の案内をホーム内に掲示しているほか、入居契約時に書面でも詳しく体制を説明したうえで書式もお渡ししている。</p>	<p>○</p> <p>苦情や些細な要望も伝えやすい雰囲気作りに努めたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催している勉強会の時、毎日のミーティングの時、日々の気づいた時、個別の相談など、いつでも建設的な意見が出せる雰囲気作りと、その意見に対する実践を行っている。</p>	<p>○</p> <p>全体的な会議と個別の思いをくみ取る機会をつくり、改善に役立てたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や活動、要望に応じた人員配置を適正、柔軟に行っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状態の変化を適確に把握しながら、人員と質の確保に努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム開設から8年目になるが、最初からの職員が5名そのままおり、当初から馴染みの関係を大切にしている。</p>	<p>○</p> <p>馴染みの職員が生き生きと働けるような環境作りを大切にしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内外の研修や、自主参加、OJTの活用、職員個別の年間目標の策定、市内グループホームスタッフ研修会には企画からの参加、法人内の大規模研修など、質の向上には計画的、段階的に取り組んでいる。現職員で実践研修が5名、実践リーダー研修が3名受講済で、防火管理者講習など、機会があれば規定以上に参加している。</p>	○	<p>段階的かつ継続的に職場内外の研修を重ね、ホーム全体としての質の向上に努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡協議会での事例検討や勉強会、先駆的取り組みの事業者相互評価、市内グループホームスタッフ交換実習、市内スタッフ研究会など、連携と質の向上につながる取り組みが積極的に行われている。</p>	○	<p>大村市内のグループホーム連絡協議会やスタッフ研究会の活動をより活発化して、交流を深めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>リフレッシュ有給休暇の付与や、人員体制の確保で負担の軽減につとめている。職員個別の年間目標に沿っての達成度の確認や、親睦会への参加費の全額助成によって他ホームや機関との交流と気分転換の機会をつくっている。</p>	○	<p>業務中でのやり甲斐や達成感を見出せるように、状態に合わせた業務改善を行いたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎年度初めに職員個別に年間目標を策定して、目標を持って勤務するように意識して取り組んでいる。個別の資格取得であっても、経験者が指導・アドバイスしながら行っている。</p>	○	<p>各職員の長所が生かせるように業務に採り入れながら、質の向上に努めたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の相談の際には、本人・家族・関係機関等から話を聞くようにしており、当然ながら、入居時のケアプランに反映している。</p>	○	<p>初期の段階から信頼関係が構築されるように、話を聴き、要望が引き出せる雰囲気作りに努めたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の相談の際には、ご家族の勤務や都合に合わせて夜にご自宅に訪問し、現在の暮らしぶりや困っていることをよく聴きながら、他のサービスも紹介したうえで、利用料金などの重要事項を説明し、要望を引き出している。</p>	○	<p>これまでの生活や介護に敬意をはらいながら、これからの要望も引き出せるように、話し合う機会を確保していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談の内容に応じて、他機関を紹介したり連絡調整したり、次につなげ る対応をしている。	○	グループホームの協議会や他協議会との連携もあ るので、緊急連絡体制も含めて、さらに連携を深め たい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	相談の段階でも、本人同伴で数回ホームに來たり、短時間ずつ馴染ん でいくなど、要望や状態に合わせて対応している。	○	本人や家族の要望を引き出しながら、希望に添っ た柔軟な対応をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・裁縫・園芸など、今でも教えてもらう機会がホームの生活の中 にある。職員によっては、結婚などの自身の相談事を他職員の以前に利 用者本人に相談して、適切に対応してもらったこともある。	○	これまでの人生経験を尊重しながら、年長者として 相談をしたり、共に支えあう関係作りを大切にしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族にできること、負担にならないことであれば、事前に協議をしたう えで共に協力してもらうようにしている。	○	家族心理を理解しながら、ご家族からの要望にも一 つ一つ応えながら、信頼関係の元に意見が言い合 えるような関係作りに努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	アクティビティとして本人から家族宛に手紙を書くことで、返信や電話、 ホームへの訪問の際の会話のきっかけになったり、残存能力の確認に もつながっている。	○	ホームの生活での新たな発見や暮らし振りを伝えて いく事で、より良い家族関係づくりにも配慮したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないう、支援に努め ている	行きつけのパーマ屋や病院、スーパーであっても、大切にしている。家 族以外の知人宅にも連絡して承諾のもとに訪問することもある。	○	新たな情報収集と生きがい作りに努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	ご家族からのお土産のお菓子は、利用者の方を皆さんに紹介しなが ら、お互いにお礼や言葉をかけて関係作りを意識している。	○	利用者の同じ年代同士の関係や会話を大切にしま しながら、支えあえる関係作りに配慮したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他機関へ退所したご家族が、いまだに介護に関して相談に来られたり、知り合いの方の入居相談のために電話が入ることがあり、対応している。	○	入居中でも退所されても、ご縁が合った方々との関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームでの生活のみに限定せず、本人の希望を尋ねながら、その人にとって最善の環境を考えてチームで検討している。	○	他ホーム・他機関の詳細な情報を収集しながら、検討の幅を広げたい。本人・ご家族・スタッフ間で検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接調査や入居後の訪問の際に、必要な事項は信頼関係を築きながら確認している。	○	出生から入居直前までの詳細な生活歴を把握しておくことに越した事はないが、現在の生活が安心したものである方までは必要がないこともあると考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・睡眠・排泄・活動・服薬・習慣等に関する観察と記録に基づき、一人一人の生活パターンを把握したうえで対応している。	○	定期的なアセスメントや、臨時の検討会を開催しながら、変化に対応したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントと希望の抽出、個別のケース検討会の開催により、本人本位の介護計画となるように努めている。家族には、実際に手書きで要望を書いて頂く様に働きかけている。	○	定期的なアセスメント時には、全スタッフ間での検討会の際に、本人・ご家族からの要望を採り入れているが、更なる充実に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新入居時の1週間・2週間・1ヶ月プランや、3ヶ月を最長とする定期的な見直しや、状態に応じて短期間の設定、期限前の臨時の検討会の開催などを行っている。	○	ご家族の都合に配慮しながら、ご負担で無ければ、検討会に同席してもらおうように働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録・バイタル表・睡眠排泄表・薬剤管理表・検診データ表や全体の共通用紙、月別の統計用紙、状態に応じて1人のみの記録用紙を作成し、情報の共有と蓄積につなげている。	○	日々の直接のふれあいを大切にしながらも、書式や記録の改善と充実につなげたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の活動や外出支援のほか、全員で出かける時などは併設機能を活かして送迎や付き添いの介助支援を得ている。	○	元々、多機能性を備えているので、更なる充実を構築したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは日頃の防災訓練のほか、市内のグループホーム関連の防火管理の窓口的役割りを果たしており、消防法改正後に講師として招き確認をしたり、消火大会出場もあり連携と親睦を行っている。民生委員とはホームでのフルーツ演奏の機会もあり、ボランティアとして自ら協力してもらっている。	○	地域の資源を開発しながら、個別的・継続的つながりを図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具貸与の事業者が必ず週2回立ち寄ってくれている。補助食品業者も、管理栄養士が個別にホーム利用者の状態に応じたクリアファイルを作成され、血液検査データに基づく必要物品の活用につながっている。	○	入居前の居宅のケアマネジャーとの関係も大切に維持しながら、いつでも連絡・調整ができるように、活動や状態の連絡を継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が、地域包括支援センターの運営協議会委員及び権利擁護部会委員になっているため、主体的・先駆的に協働に参画している。	○	入居者のみならず、地域や市内の対象となる方々に対しても、広く貢献出来るように関わっていききたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を継続する方のほか、内科協力医の往診、歯科・皮膚科・耳鼻科の往診と通院、状態に応じた受診を行っている。	○	主治医であっても馴染みの関係者の一人であるということは開設時から大切にしており、今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医が主治医となっている方もおり、開設時から協力医として指示や助言を頂いている。	○	いつでも気軽に相談できる関係を、これからも維持していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	内科医の往診時には、併設の看護師が必ず付き添うため、日頃から顔・名前・状態がわかっており、ホーム任意でも年一回胸部レントゲン撮影を全員行っており、また、日頃の処置でも気軽に協力してもらっている。	○	ホームの機能を最大限に引き出しながら、更なる充実に努めたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報交換や食事介助、洗濯物の引き取り、入院による不安の軽減を図るため、毎日のように出向いており、入院中であっても関わった事項はケース記録に記載している。	○	主治医や、医療機関内の医療連携室との連携を深めながら、情報交換と連絡・調整を進めたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な状態の変化の段階から、家族、医師、職員間で話し合う機会を設けているため、段階的に合意を得ながら対応している。	○	状態や症状に適した環境の検討を、早期に検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度であっても、当ホームでの生活が最善の環境である場合には、連携体制を揃えて対応している。家族・医師・併設施設の意向・協力・連携体制を随時確認しながら、ホームとしてまだまだできること、先々に限界があることを予測の段階で確認しながら、家族からの同意を得てすすめている。	○	状態や症状によっては、ホームでできる限界もあるので、最善の環境を早期に検討しながら進めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームへの入居の際には、8年前の開設時から事前に訪問調査を行い、状態や生活歴の確認のほか、住環境も確認し、同意を得て自宅居室の写真撮影を行ってホームで再現している。入院等のホームからの移動の際には、ホームでの生活の特徴を追加して関係機関に情報提供している。	○	住み替えによる心理的な不安やダメージが最小限になるように、情報収集の充実と、不安に向き合う介護に徹したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規定を定めており、ご家族からの同意書のほか、個別に確認するようにしている。引継ぎ事項に関する職員個人の手帳・メモに関しても、ホーム内のロッカーに保管して、持ち出ししないようにしている。言葉かけに関しては、理念である『人を敬う』という方針に基づいて常日頃から心掛けている。	○ 言葉掛けが常時適切になるように、スタッフ間でも互いに注意しあう環境作りで、改善につなげたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の尊重はホームの運営方針の一つとして開設時から掲げており、会話の中で尋ねながら選択肢を提案する場面が生活の中に定着している。	○ 全職員が利用者の思いを適切にくみとれるように、メンタル面での質の向上も含めて改善したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	戸外への自由な散歩や、買物への要望にはその都度個別に対応するなど、一人一人のペースや自己決定を大切にしている。	○ その人らしいペースや希望が引き出せるように、普段のかかわりから決定権を意識して接していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧水・乳液・化粧の支援のほか、美容室へは馴染みの店へ個別に送迎して、パーマや染めで時間がかかっても、終わるまで付き添うようにしている。また、美容師免許所有の職員によるカットを希望される方には、定期的に無料でカットしている。特別な日には着物の着付けの支援も行っている。	○ 職員自身もおしゃれをすることを年間目標に掲げている者もあり、共におしゃれをして会話にも反映できるように心掛けたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する買物・調理・盛付け・配膳・下膳や、自家菜園での野菜作りも一緒に行う事で、生活の中に一人一人の役割りや生きがいを発揮する場面を作り出している。	○ 美味しいもの、熱いものは熱いうちに、冷たいものは冷たいうちに、食材や健康にこだわり、出来るだけ手作りだと、常に意識して関わりたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビールが好きな方には入浴後や寝る前に楽しめるようにしていたり、唐辛子・卵焼き・バナナ・コーヒーなど、個別の嗜好品を把握したうえで日常生活に取り入れている。	○ 栄養や健康に配慮しながら、好きなものを多く採り入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄の間隔や習慣・サインを確認しながら、尿意・便意のない方にもトイレ誘導を行うなどのほか、状態に応じて随時見直しを行っている。	○	個別に、時間ごとにパターンを変化させ、安易にオムツにならないように配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定は無く、体調が良い時はひと月に30日入浴される方もいるなど、毎日入浴を楽しめるように支援している。羞恥心が強い方には最小限の見守りや声掛けを行ったり、不安感が強い方には職員も一緒に湯船に入ったりと、個別に関わり方も工夫している。	○	入浴剤や入浴後の楽しみも含めて、お風呂に入る事が楽しみになるように、さらに改善に努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れやすい方には個別に休息を取り入れたり、眠れない方には添い寝をして安心感を与えたり、無理に寝てもらおうとせずに見守ったり、日中に体操や活動をして生活のリズムを整えるように工夫している。	○	一人一人の生活リズムと機能維持のための活動を考慮しながら、1日の生活リズムを整えるように努力したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関先の植木への水やり、自家菜園の畑仕事と収穫、饅頭作り、地域でのお茶もみ、好きな裁縫で浴衣作り、雑巾や巾着袋作り、居室や廊下の掃除など、役割りや楽しみごとを見出して支援している。	○	毎日の暮らしの中での役割りや楽しみごとを、趣向を凝らしながら新たな物作りや活動プログラムを充実していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額持つことで安心される方には、手元を持って頂いており、買物の時などは自ら使えるようにしている。全額管理をしている方でも、スーパーのレジの前で財布ごと渡したりして、記憶を呼び起こすように工夫している。	○	日常の暮らしの中で、お金を持ったり使ったりできるように、個別に外出する機会を確保しながら取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中をとおして鍵をかけない介護に心掛けており、自由に戸外へ出られるようにしている。近隣の散歩や、季節感を肌で感じるドライブ・買物・弁当持参での町内の催し物への参加・小学校児童の下校見守り・日用品の買物など、利用者の状態や希望をいかして取り組んでいる。	○	個別の馴染みの店や印象的な場所を会話の中で引き出しながら、その人らしい外出やつながりの維持に努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に行われる中学校や自衛隊の定期演奏会に全員で出かけたり、市外の長崎ランタンフェスティバルへ職員の運転でご家族と共に出かけたり、弁当持参で野母崎へ芋掘り、川棚町や嬉野町への温泉・外食、市内喫茶店へご家族と一緒にケーキ喫茶、市内外への季節の花(桜・コスモス・菖蒲・ひまわり・しゃくなげ)の鑑賞など、季節感を取り入れた外出も心掛けている。	○	会話の中で県外の生まれ故郷の話が続いた時にはご家族に申し出て外出した事もあるが、これからも、普段の会話からヒントをもらい、個別に外出支援を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があるときにはいつでも無料で使えるように配慮して取り次いでいる。アクティビティとして文字を書く機会も確保し、返信の依頼文書も添えて、やりとりや関係作り、残存機能の維持向上も意識して取り組んでいる。	○	手紙や文字を書くことでの新たな発見もあるので、今後も継続的に取り組みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームへ訪問された際には、湯茶を準備して歓迎の意思を表し、ゆったりと過ごせるように配慮している。面会時間の設定は特別に無く、折りたたみ式のベッドでよければ、いつでも居室に泊まれるように配慮しており、その実績もある。	○	ホームの居室の他、共用空間の環境も随時居心地が良いように工夫しながら改善したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び権利擁護に関する研修会の参加、台帳の整備、勉強会の開催をとおして、日々のミーティングや他事業・他県の事例を再確認して振り返りながら、身体拘束をしない介護に心掛けている。研修会・講演会の案内がある時はホーム内に掲示して、ご家族・ご利用者も一緒に研修に参加したこともある。	○	身体拘束に関する研修会やシンポジウムには、今後も積極的に参加していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけないケアを実践している。畑や戸外に出る機会、訪問の方もあり、不快な音となるセンサーも設置していない。その分、目配りや人員配置、各職員の意識とケアの質の向上によって、事故が無いように心掛けている。	○	今後も、利用者の状態を見極めて安全に配慮しながら、鍵のないケアの実践に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子を察知しやすい位置で職員が活動や見守りを行いながら、記録であっても同じ空間で行うように配慮している。夜間帯は、フロアの中央となる和室で待機しながら、些細な物音も察知しやすいように心掛けている。	○	プライバシーを尊重しながら、安全や衛生の確認に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミなどは、夜間には保管しているが、日中はできるだけ不自由が無いように定位置に置くなどの配慮をしている。義歯洗浄剤などの洗剤等に関しては、個別の状態に応じて、居室に置いていても大丈夫な方、職員管理が必要な方と、アセスメントを十分に行った上で対応している。	○	居室や共用空間の物品に関しても、個別の感心や能力を見極めながら、随時の見直しと対応を行いたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書以前のヒヤリハットの様式を活用し、重大事故にならないように配慮している。一人一人の状態を定期的にアセスメントし、予防的対策も随時検討している。	○	拘束や能力の制限につながらないことにも配慮しながら、事故防止策につなげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習会、上級救命講習会、防災訓練の傷病者手当、その他の勉強会の開催により、予測される事故について訓練を行い、緊急時についてのマニュアルも策定している。	○	併設施設や関係機関との連携を深めながら、事故発生時の適切な対応ができるように備えておきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した防災訓練、地域の町内防災協力会の組織化、消防署主催の消火操法大会への出場、毎月定期的な自主点検、防災業者の保守点検、台風・停電・大雪時の対応マニュアル、運営推進会議での報告と協力依頼、町内の避難場所としての周知などを行っている。	○	市内全域での大規模災害を想定すると、ここまでして充分とは言えないが、出来る限りの備えと想定、訓練を充実していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人の状態に応じた今後のリスクについては、早い段階からご家族とも協議を重ねるようにしている。自由な暮らしにはリスクが高くなること、安全を優先すると抑制感が生じることを説明しながら、ご家族の希望や法的根拠も勘案しながら、対応策を検討している。	○	状態の変化に応じて随時見直ししながら、スタッフ間やご家族と話し合いを行って対応策を検討していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは通常でも日に3回実施しており、些細な変化でも見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化時には併設の常勤看護師に連絡・相談・処置を依頼したり、医師への報告や受診・往診につなげている。個別のバイタル表に日中及び月間のグラフ作成、ケース記録と併せて受診時に持参し開示して日頃の変化も確認して頂いている。	○	体調の変化の早期発見、引継ぎでの情報共有、医療との連携、予防策を講じながら対応していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員に、薬局からお薬手帳を交付してもらっており、処方ごとに薬剤情報の用紙も頂くようにしている。馴染みの薬局での処方では他科の薬との相性の確認、個別に飲み込みの具合によって気軽に粉薬に依頼したり、一包化と表示、通院で遅くなった時の薬の配達も協力してもらえる。全員分の飲み薬・塗り薬一覧表、薬の残量一覧表、毎食ごとの服薬箱に錠剤数表示など、誤薬がないように幾重にも注意している。	○	薬剤に関する情報の共有と幾重の誤薬予防策で、適切な服薬支援に心掛けたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分の量や素材、調理法、栄養や調理に関する勉強会の開催、管理栄養士を講師としての研修会、レクリエーションや体操・活動の実施、個別の特性の理解と対応、通院・往診時の医師への連絡・相談により、多面的に取り組んでいる。	○	個別の習慣を確認しながら、服薬だけに頼らず、食事や水分の見直しをすすめるながら改善に努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回の毎食後の口腔ケアや声かけ・見守り、寝前の義歯洗浄、口腔ケアの研修会参加などにより、口腔内の清潔保持に努めており、必要時に歯科往診依頼で調整にも心掛けている。	○	口腔ケアに関する知識と技術を高めながら、個別の能力を引き出した上で、見守ったり介助を行うように心掛けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好品や習慣を把握したうえで献立に反映して、補助食品も活用しながら栄養バランスに配慮している。主治医の血液検査データ表を参考に、時には併設の管理栄養士や補助食品業者の栄養士に相談し助言を頂きながら実際に個別の茶碗で注ぎ方の確認をしたこともある。	○	食事の量や献立に偏りが無いように配慮しながら、個別の確認を行いながら支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルの策定で共用のファイルがあり、新たな通達や注意文も全員が確認して活用している。インフルエンザの予防接種及び胸部レントゲン撮影は、全員年1回必ず実施しており、予防にも努めている。	○	感染症予防に関する毎日の対応、季節的対応、関係機関と連携した標準予防策の策定など、随時対応したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	複数のまな板・包丁の使い分けと熱湯消毒・衛生管理、台所周りの掃除で清潔保持、定期的な換気扇の清掃、ポットや冷蔵庫の清掃、水道水の残留塩素確認も行っており、口にする食材だけでなく関係する機械の衛生にも努めている。	○	新鮮で安全な食材や賞味期限を確認しながら、調理機器の衛生維持に努めて工夫を重ねたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の花や植木・プランタンの設置と手入れや、季節によっては外への装飾、手作り玄関マットで温かみの雰囲気作り、高齢者や・若い方のブーツを着脱する時用の椅子の設置、手作り額に理念の掲示、絵画や季節の小物の設置などと工夫している。	○	第三者の視点で違和感が無いかを点検しながら、感想や意見を頂きながら工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間やトイレには生花や観葉植物・写真・手作りカレンダー・家庭用の装飾品・季節の飾りつけ・手作り暖簾・台所やトイレ用のお寺の御札・頂いた絵画などを置いて居心地のよさに工夫をしている。照明は、安らぎの心理作用を考慮して暖色系の間接照明を活用している。心地良い音楽としては、ご家族のケアプランへの要望として童謡やナツメロを流している。食事や活動を通して五感刺激と季節感を採り入れている。	○	共用空間は『家庭的』をキーワードに、居心地のよさと五感への刺激に配慮しながら、馴染みの物を多く採り入れて工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には居室の他に一人や数人で腰掛けられるソファや椅子を教箇所設置しており、居室以外で一人になれることには開設時から配慮しており、実際に生活の中で利用されている。	○	利用者やご家族の意見、他ホームとの交流で参考にしながら、くつろげる空間づくりに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人居前の面接時には同意を得て自宅の居室を確認し、出来る限り自宅に近い再現に考慮しながら、仏壇や嫁入りの箆笥・人形の飾り棚・鏡台・裁縫箱・使い慣れた椅子・はたき・写真・位牌などを持ち込んでおられ、運搬もホームで無料でやっている。仏壇持込の方には、毎朝一番のご飯を御仏飯として準備して一緒にお供えて、ローソクを灯し線香を焚いて一緒にお参りしている。	○	居室は『個性的』をキーワードに、本人が慣れ親しんだ品物を出来るだけ多く採り入れながら、本人にとって居心地の良い空間となるように配慮したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室や共用空間には温湿度計を置いて目視で確認しながら、換気・扇風機・エアコン・加湿器・換気扇・部分的な消臭剤の活用・掃除等により温度調節と衛生管理に努めている。ポータブルトイレ利用の方には毎日洗浄し、体臭や服薬からくる居室の異臭が無いように、体調をチェックの上で全員毎日入浴できる体制を確保している。	○	空気の入替えやエアコンでの温度調節により、換気を行いながら、数値だけでなく、利用者の体調にも配慮しながら行いたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はほぼバリアフリー設計であり、和室への段差は出入りし易いようにソファの背もたれへつかまれるように配置しながら、目配りと個別には介助を行い、トイレへの手摺りは利用者の方からの要望を反映して後付けで追加設置したりしている。浴室には、状態に合わせて福祉用具を設置している。	○	一人一人の状態に合わせた設備や道具の工夫を行いたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を見極めながら、目立ちすぎず解りやすい表示や、声かけやタイミング・自立を支援する関わり方などについての検討を重ねている。	○	混乱や失敗が無いかを確認しながら、馴染みの物を活かすなど、状況に合わせて環境整備に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	個別には中庭の花壇の設置で好きな花を植えて楽しんだり、庭へ洗濯物を干したり確認したり取り込んだりと自由に出入りできるように見守ったりしている。玄関先の花に水をかけたり、飼い犬を眺めたり、日光浴をしながら爪を切ったりと、自分のペースでゆったりとくつろげるように配慮している。	○	日差しや風が入る活動ホールの環境を季節ごとに配置を変えたり、玄関先や外周りでも憩えるように工夫を重ねていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さまざまなアクティビティによる物作りや、個別のゆったりとした外出の機会などのほか、連絡協議会関連での他ホームや他機関からの相談に対応することが特徴的です。

また、全職員の認知症ケア歴平均が13年6ヶ月、当ホームでの勤務年数平均が4年3ヶ月、多くの研修履歴など、馴染みの関係で質の向上を図っています。